



青春の火は燃ゆ

全日本マスターズ鳥取大会 クラス別日本新43が誕生

第39回全日本マスターズ陸上競技選手権鳥取大会は9月22日から24日までの3日間、鳥取市のコカ・コーラボラズジャパンスポーツパーク(鳥取県立布勢総合運動公園)で行われた。クラス別の世界記録こそ生まれなかったが、日本新記録が男女合わせて43も誕生した。内訳は男子19、女子24と男子に日本タイ1だ。「爽やかな砂丘の風にマスターズ」のスローガンの下、熱戦を繰り広げたレースを振り返ってみよう。

すどかった「末續フィーバー」

200mで20秒03(2003年)の日本記録を持ち、100mも10秒03(同、日本歴代5位)と、2000年シドニー、2004年アテネ両五輪の4×100mRでの入賞と併せ、輝かしい業績を残している末續慎吾さん(38歳・神奈川)の登場に会場全体が熱狂した。

M35・100mのレースはバックストレートで行われたが、末續さんが姿を見せると、全観客がバックスタンドを向いた。末續さんはスタート後、前半

はスピードをセーブしているような走りだったが、後半は「さすが」と思わせる走りでもトップスピードに。ゴールは10秒95(-0.4)。大きな歓声と拍手が波打った。

200mを棄権し、最終日の60mは7秒04(+0.9)で、100mは1位だったが、こちらは2位。60mではスタート時間が遅れたり、200mの棄権はあまりの人気で、練習に集中できなかった?のが理由と見る向きも。「マスターズは独特の雰囲気がありますね。結構楽しめました。チャンスがあればまた出ますよ」と振り返った。

MVPは中山淳子さん

W60クラスの中山淳子さん(60歳・愛知)が会心のレースを見せた。800mと1500m、3000mの中・長距離3種目を、いずれも日本新で制する快挙をやったのけ、最優秀選手賞に輝いた。

800mは2分43秒32で勝ち、2分44秒81の日本記録を5年ぶりに更新。3000mを11分28秒37で1位になり、11分51秒50の公認記録を8年ぶりに破った。それも考えられないほどの大幅更新だ。2種目が終わり、1日置いた最終日の1500mは「始めよければ終わりよし、の通り懸命に走ろう」と、最後の力を振り絞って走った。ゴ

ールタイムは5分29秒16と、これまた5分30秒81の日本記録を7年ぶりに書き替える記録で有終の美を飾った。

「5月に足をケガして心配していましたが、幸い痛みがなくて。(3種目に勝って)うれしいです。タイムについてですか?もっと上を目指したかったです」と、記録については「どん欲」などところを見せた。

中山さんは愛知教大の出身。学生時代は陸上部だったものの「男子の駅伝の練習の後ろについていただけ」。卒業後は小学校の教諭になり、今なお後進のアドバイザーとして教育の場に。日頃の練習は時間を割いて土・日曜日に近くの公園で足を慣らしている。「スピード練習ができないので、どうかなと思っていましたが、今回はうまくいきました。これからも走り続け、記録の向上を目指したいです」。

渡川さんが女子優秀選手に

女子優秀選手賞は渡川孝子さん(75歳・徳島)が射止めた。渡川さんの受賞は織田賞のMVPが始まった1995年の第16回大会からを除き、第1回、6回大会に次いで33年ぶり3回目だ。

2日目に行われたW75・100mは16秒18(+0.5)、走幅跳に3m40(+1.4)で快勝。最終日の60mは10秒



中・長距離の3種目で日本記録を更新して最優秀選手賞に輝いた中山さん



女子優秀選手賞の渡川さん

08 (-0.3) でトップだったが、このうち60mと走幅跳は大会新、100mは16秒46の公認記録を6年ぶりに更新する日本新だった。しかし、W75クラスの100mの最高タイムは渥美裕子さん(75歳・滋賀)が8月26日の滋賀マスターズ陸上で出した16秒01(+1.6m)で、この記録には及ばなかった。

W75・100mは8月に日本新記録を出した渥美さんか、昨年の和歌山大会のW70クラスで渥美さんに勝っている渡川さんか、で注目された。前半は接戦。50m以後の後半に入ると、渡川さんが渥美さんの前に出て、そのまま粘り勝った。

両者は京都・光華学園高-光華知大の先輩と後輩。後輩の渡川さんは「先輩に勝って申し訳ないけどうれしい」。渥美さんは「タイムは8月に出した16秒01が上なので」と。鳥取での渥美さんの記録は16秒50だった。

レース後、渡川さんは「走幅跳で3m47の日本記録を破ろうと頑張りましたが、7cm及びませんでした。1、2回目の試技で踏切の足が合わずに失敗しました。次に奈良市である国際ゴールドマスターズで、もう一度記録に挑戦します」ときっぱり。

渥美さんも「私も初めて出た立ち五段跳で8m63(±0.0)を跳び、8m16の日本記録を破りはしましたが、

第39回全日本マスターズ陸上競技選手権鳥取大会 日本記録樹立者

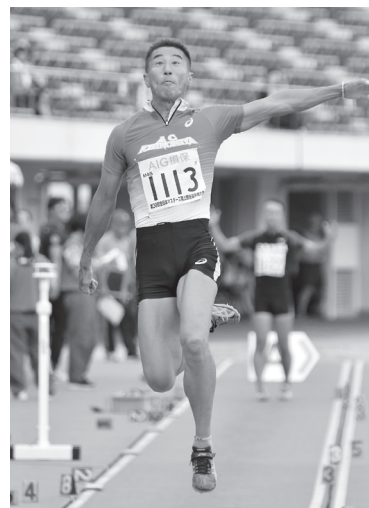
クラス	種目	順位	記録	選手	所属
〔男子〕					
M25	60m	①	6秒45(+0.5)	谷口 雄紀	(京都)
		②	6秒64(+0.5)	渡久地真吾	(沖縄)
		③	6秒73(+0.5)	若林 堯之	(愛知)
		④	6秒79(+0.5)	荒井アジア	(静岡)
		⑤	6秒87(+0.5)	松浦 崇史	(広島)
M24	110mH	①	14秒55(-0.3)	堀江 功輝	(岐阜)
	3000mSC	①	9分56秒57	臼田 裕基	(徳島)
	棒高跳	①	4m30	一ノ瀬 航	(愛知)
	立五段跳	①	16m72(±0)	増田 善久	(香川)
	4×400mR	①	3分29秒62	(豊田 隆葵・湯田 功稀・伊藤 大輝・中西 佑輔)	三重
M30	立五段跳	①	15m28(±0)	松葉 優	(大阪)
	3000mSC	①	9分25秒97	谷口 晃太	(鳥取)
M35	立五段跳	①	16m15(±0)	金田 純弥	(愛知)
	立五段跳	①	16m00(±0)	須田 学	(大阪)
M45	△走幅跳	①	6m64(+1.3)	松原 憲治	(愛知)
M50	60m	①	7秒23(+0.6)	宮本 義久	(神奈川)
	4×100mR	①	46秒12	(奥山雄一・渡辺 実・徳永増美津・小高孝二)	愛知
M65	立五段跳	①	12m75(±0)	光宗 皇彦	(岡山)
M70	立五段跳	①	12m01(±0)	井村 忠	(千葉)
M95	立五段跳	①	5m40(±0)	広瀬 弘	(富山)
〔女子〕					
W24-	100mH	①	15秒62(+0.8)	三浦 真子	(大分)
	三段跳	①	11m73(+1.3)	三浦 真子	(大分)
W25	4×100mR	①	50秒00	(松井美樹・野村祥花・浅井紀子・酒井あおい)	愛知
	立五段跳	①	11m37(±0)	堀 扶子	(三重)
W30	100mH	①	14秒69(+0.8)	田中みのり	(愛知)
	やり投	①	48m83	谷風 夏美	(福岡)
W35	60m	①	7秒80(+0.2)	熊谷 香織	(長野)
W55	4×100mR	①	57秒35	(堀 良子・山崎夏千子・藤原恵美子・高橋葉子)	神奈川
	800m	①	2分43秒32	中山 淳子	(愛知)
	1500m	①	5分29秒16	中山 淳子	(愛知)
	3000m	①	11分28秒37	中山 淳子	(愛知)
	立五段跳	①	10m42(±0)	木村 和代	(愛知)
W60	やり投	①	29m25	内田智恵子	(長崎)
	400m	①	1分15秒43	堀 良子	(神奈川)
	やり投	①	27m81	加藤 恵子	(和歌山)
W70	立五段跳	①	8m71(±0)	榎渡 久子	(北海道)
	立五段跳	②	8m28(±0)	中塚百合子	(京都)
W75	100m	①	16秒18(+0.5)	渡川 孝子	(徳島)
	立五段跳	①	8m88(±0)	秋田ソノ子	(奈良)
		②	8m63(±0)	渥美 裕子	(滋賀)
W80	3000mW	①	26分30秒49	阪田八恵子	(京都)
	立五段跳	①	8m16(±0)	馬淵 弘子	(大阪)
W85	立五段跳	①	6m55(±0)	辻 ミツア	(奈良)
W90	やり投	①	6m98	北島 喜美	(徳島)

(△印は日本タイ)

順位は100mと同じく2位。1位の秋田ソノ子さん(79歳・奈良)は8m88(±0.0)も跳んでいます。渡川さんではないけど、私も10月27、28日に奈良である国際ゴールドで挑戦してみたいと話した。

男子優秀選手賞はM45・走幅跳で6m64(+1.3)の日本タイ記録を跳んだ松原憲治さん(48歳・愛知)に。2年前に松原さん自身がつくった日本記録に並んだ。ほぼ同じ期日に大阪市で全日本実業団対抗選手権の男子走幅跳に7m84で優勝した松原瑞貴選手は子息。二重の喜びとなった。

(以下、次号に続く)



男子優秀選手賞の松原さん